

ツィナールへ向けてドライブ開始

8月3日 スイス1日目 移動日 曇り後晴れ

チューリッヒ空港からレンタカーを利用してツィナール(Zinal)へ移動
チューリッヒ空港～ベルン～カンデルシュティーク～シエール～ツィナール
カンデルシュティークから先は道路がないため、カートレインに乗車

エピソード

ベルンからツェルマットやサースフェー、ツィナール方面に向かう途中のカンデルシュテーク(Kandersteg)から先は全長 14.612m のレッチベルクトンネルを通らなければならないが、自動車道路はなくレッチベルク鉄道がカートレインを運行している。南側の駅はゴッペンシュタイン。カートレインは乗車したまま貨物列車の荷台に並ぶ。長いトンネル内は真っ暗で、車内とはいえ、かなりスリルがあって面白かった。スイスにはこのようなカートレインが4ヶ所ある。料金は27CHF。



ツィナールの美しい町並み



グラ・サン・ベルナール峠 2469m

8月6日 スイス4日目 観光・移動日 曇り時々雨

ツィナール〜グラン・サン・ベルナール峠まで往復〜ザース・フェーへ移動

エピソード



グラ・サン・ベルナール峠はセント・バーナード犬で有名である。サン・ベルナールの英語読みがセント・バーナードである。マルティニーとイタリアのアオスタを結ぶ、昔から重要な交通の要衝路である。

標高は2469m。セント・バーナード犬に会えることを期待して行ったが、今は観光用としても飼育されていなかった。

峠の下に大きな池があり、峠には歴史あるホスピスの建物が建っている。中の展示物で歴史を知ることができる。

以下、ウィキペディアより一部引用

峠では山賊の出没や悪天候、雪崩などにより遭難者が数多く出ている。1050年、アオスタ大聖堂の助祭長ベルナール・ド・マントン（聖バーナード）は、峠の山頂に遭難者の救助を目的とした**ホスピス**（救護所、ターミナルケアを行う現在の「ホスピス」の語源）を建設し、人々に宿泊と食事を提供した。こうした功績によりベルナール・ド・マントンは1681年に教皇インノケンティウス11世によって聖人に列せられた。グラン・サン・ベルナール峠の名は彼に由来する。遭難者の救助に活躍したのが犬たちである。代々育成されてきた救助犬たちは、樽に詰めた食料や気付け薬を遭難者へ送り届けた。こうして少なくとも2500人の遭難者が救助されたと伝えられている。

下の写真は峠にあるホスピスの建物



フルカ峠 (Furka Pass) 標高 2436m

8月9日 スイス7日目 観光・移動日 晴れ

ザース・グルント～フルカ峠～イランツ～ユリア峠～サンモリッツ～ポントレジナ

エピソード

今回、いくつもの峠を越えたが、どの峠もヘヤピンカーブの連続。降りてくる車はかなりのスピードでオーバーランしてくる。マニュアル車（レンタカーはマニュアル車が多い）のため頻繁にギヤーチェンジを繰り返す。左ハンドルのドライブテクニックが試される場所である。登山よりスリリングで楽しい。こちらも 60km 以上でカーブを上がり、80km 以上でカーブを下る。横で「落ちる～やめて～」悲鳴が上がる。

フルカ峠 (Furka Pass) もその一つであった。峠はグレッチュ（ヴァレー州）とレアルプ（ウーリ州）とを結んでいる。標高は 2436m。1982 年に全長 15407m のフルカトンネルが開通し、列車の峠越はなくなり、カートレインも運行されるようになった。今は旧軌道が観光用にフルカ山岳蒸気鉄道として復活し夏だけ運行されている。氷河急行の由来はローヌ氷河を眺める旧軌道に付けられた名前である。昔見られたローヌ氷河を見ることできない。

この峠は北海（ライン川）と地中海（ローヌ川）の分水嶺になっている。峠の下で、ローヌ氷河と眼下に地中海に注ぐローヌ谷、ヘヤピンカーブの連続するドウライブウェイを見ることができる。目印はホテルベルヴェデーレとお土産や（氷河見学の入り口・有料）である。駐車場もあるが満杯で路上駐車が多かった。



峠で見かけたオープンカー



駐車場で見かけたオートバイ



こんなヘヤピンカーブが連続する



眼下の川はローヌ谷

氷河の後退

ベルヴェデーレの中に展示されている写真を見るとこの百数十年間にどれほど氷河が後退したかを知ることができる。雪の多い時代にこの峠を切り開いた先人の苦労が忍ばれる。



ホテルベルヴェデーレ



1950年頃の写真

氷河は消えてなくなっているため谷の奥に行かないと見学できない。左上の写真の左側は氷河ではなく岩盤である。この数十年間だけでもどれほど氷河が後退したかを知ることができる。



ここがフルカ峠 標高 2436m